やまと日本かぶれ

第二部・第十二回

『源氏物語』の世界を楽しむ

真の国際化とは自分の国を知ること。
古典文学『源氏物語』の知性に触れる。
日本の伝統の奥深さを知り、ビジネスに生かす。

text by 渡辺幸裕

この国の文学的伝統の奥深さを物語るのが『源氏物語』だ。かくも見事な長編フィクションが1000年も前に女性によって書かれた事実は、外国人に日本という国を理解してもらう大きなよすがとなるはずだ。

もっとも、話題にするには、知らねばならない。物語に親しむポイントを源氏物語研究者の三田村雅子さんに伺った。

「一般的に『源氏物語』は女性だけに読まれてきた印象が強いですが、実際は各時代の為政者に知の象徴として親しまれてきました。織田信長も、徳川家康も『源氏物語』を読み、寛政の改革を指揮した松平定信などは5回も物語を筆写したほどです」

戦に勝って国を掌握した為政者たちが文化的にも国を治めるために源氏物語を読み、物語世界を蒔絵や屏風などに描かせる。武力だけでなく、文化的な見識の深さを示すことで国の安定を維持していたわけである。

では、この長編小説、一体どこから入ればよいのだろうか。

三田村さんは、入門者には『あさきゆめみし』が最適という。ここで大筋を理解し、谷崎潤一郎や田辺聖子の現代語訳を読むと『源氏物語』のさらに深い世界が見えてくる。興味深いのは物語には現代にも通ずる話が出てくることである。例えば、メッセージのやり取り。相手から短歌が届き、使いが待っている間に気の利いた返歌を返す。いかにも雅な習慣だが、これなど現代日本の携帯メール文化を彷彿させる。こんなところも物語を楽しむポイントだ。

あらすじを理解したら、物語から約150年後に描かれた「源氏物語絵巻」を鑑賞する。現存する絵巻は名古屋の徳川美術館と東京の五島美術館に所蔵されており、物語の象徴的なシーンを楽しめる。衣装や装飾品、ライフスタイル、宮廷という限られた世界だが、当時の日本を垣間見られる。外国人客を案内するのもよいだろう。

来年は『源氏物語』の存在が明らかになってから1000年。平安の絶頂期、天才作家紫式部によって書かれた光源氏の物語は時代を超えて輝き続ける。読書の秋、古典文学の最高峰に接し、自国文化に改めて敬意を払ってみてはいかがだろう。

源氏物語とは

紫式部によって書かれた、全54帖から成る平安中期の物語。長保3年(1001年)以後に書かれたとされるが、成立年は未詳。主人公光源氏の誕生から栄華を極め、過去の罪に虚しさを感じながら生涯を終えていく晩年を描いた「幻」までの前半と、「匂宮」「紅梅」「竹河」をつなぎとして、不義の子薫を主人公に宇治を舞台に展開する暗い愛の世界を描いた「橋姫」以下の「宇治十帖」と呼ばれる後半から成る。我が国の古典文学の傑作と言われ、後世の文芸に与えた影響は大きい。

時代背景

平安時代とは、794年に桓武天皇が平安京に都を移してから、1185年頃の鎌倉幕府の成立までの約390年間を指す。京都に平安京が置かれ、鎌倉幕府が成立するまで政治の中心だったことから平安時代と称する。

紫式部以外にも数多くの作家や歌人が活躍した。中でも『枕草子』を書いた清少納言は有名である。紫式部が彼女の日記『紫式部日記』の中で清少納言の批判を書いたことから2人の仲は悪かったと言われているが、実際には2人は面識がなかったと言われている。

紫式部とは

973年頃、中流貴族・藤原為時の娘として誕生。「紫式部」は呼び名で『源氏物語』の女主人公「紫の上」に由来。998年に藤原宣孝と結婚し娘をもうけるが、3年後に死別。この頃から『源氏物語』を書き始めたとされる。男性の必須学問であった漢文に通じ、「日本紀の御局」と呼ばれた。

主な登場人物

六条御息所
桐壺帝の兄である前東宮の御息所。源氏の愛人であり、やがて生霊となって葵の上を取り殺す。帰京後、娘を源氏に託して死去。

葵の上
源氏の最初の正妻。源氏より年上。葵祭の車争いの後、六条御息所の生霊に取りつかれ、夕霧を出産してすぐに死去。

藤壺
桐壺帝の中宮。源氏が3歳の時に死去した、母桐壺更衣に瓜二つ。源氏と密通し、後の冷泉帝を産む。桐壺帝没後、出家する。

紫の上
葵の上の亡き後、源氏の正妻になる。源氏との間に子はない。女三の宮の降嫁により、源氏と疎遠になり出家を願うが、許されぬまま死去。

光源氏
『源氏物語』の主人公。桐壺帝と桐壺更衣の子。妻は葵の上と女三の宮だが、事実上の正妻に紫の上。数々の女性と浮名を流した。

夕霧（源氏の子）が読んでいる手紙を落葉宮（亡き柏木の妻）からの恋文と誤解し、雲居雁（夕霧の妻）が奪い取ろうとしている様子。夕霧は親友・柏木の亡き後、落葉宮の面倒を見るように。やがて思慕の念を抱き、結婚する

国宝『源氏物語絵巻　夕霧』（五島美術館蔵）

物語から生まれたデザイン「源氏香」

巻名：夕霧
季節：秋冬

巻名：紅葉賀
季節：秋

巻名：幻
季節：四季

巻名：初音
季節：正月

源氏香とは香道の遊びの一種。5種類の香木を5包ずつ合計25包を交ぜて、そこから無作為に抽出した5包の香りを嗅ぎ当てる。香席の客は、香りを嗅いだら、紙の上に右から順に縦線を引き、同じ香りと思うもの同士を横線でつなぎ合わせる。香りを表す図はそれぞれ源氏物語の巻名に当てはめて答える決まり。
源氏香のデザインは時代を超え、現代でも小物などに使われている。

源氏物語を現代に伝えるコミックや現代語訳

『新源氏物語』上中下
田辺聖子／新潮文庫

『潤一郎訳
源氏物語』1～5巻
谷崎潤一郎／中公文庫

現代語訳は訳者が紫式部になりきって、何年もかけて完成させたもの。それぞれに異なる訳者の世界観が表れている。

『あさきゆめみし』
1～7巻
大和和紀／講談社漫画文庫

入門書としてお薦めなのがやはりこのコミック。登場人物、特に女性たちの髪の動きはその人の精神的な動きを表すなど、詳細まで読み込むと、あらすじだけでない楽しみ方ができる。

Yukihiro Watanabe

ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機に日本文化超初心者の会"和・倶楽部"を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。　写真：新関雅士

五島美術館
The Gotoh Museum

住所：東京都世田谷区上野毛3-9-25
電話：03-3703-0661（テープ案内）
開館時間：10：00～17：00
休館日は毎月曜日、祝日の翌日、展示替えの時、年末年始など
http://www.gotoh-museum.or.jp
国宝「紫式部日記絵巻」を10月13日から10月21日まで特別展示予定

三田村雅子さん
フェリス女学院大学教授

福島 修さん
五島美術館学芸員

▪日本かぶれの会【風呂敷に親しむ会】のご案内▪

日時：9月19日（水）19：00～21：00　場所：「むす美」東京・神宮前 http://www.kyoto-musubi.com/　募集人数：10名　会費：2000円（イベントで使用する風呂敷はこちらでご用意いたします）　応募締め切り：9月11日
※参加ご希望の方は日経ビジネスアソシエオンライン（http://nba.nikkeibp.co.jp/）にある申し込みフォームにて、必要事項をご記入のうえお申し込みください。
希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。結果は当選メールの発送をもって代えさせていただきます。